

所蔵資料紹介

The English Bible

所蔵:今出川図書館貴重室 請求記号:193IIS9234

ダブス・プレス(DOVES PRESS) 『英訳聖書』

IN THE BEGINNING 。

冒頭のページ、垂直に延びる鮮やかな赤のイニシャルは、創世記の始まりを告げ、神の意思に通じる歓びを与えるかのようだ。

1903年～1905年にかけて出版された5巻の『英訳聖書』は、総革製本、手漉き用紙、透かしには、出版社の象徴2羽の鳩とCSとEWのイニシャルが入っている。

イニシャルの主は、プレスの設立者コブデン・サンダーソンと活字の制作者エマリー・ウォーカー。

この二人によって数々の名作を世に生み出したダブス・プレスは、Private Pressのなかでも、中世の道徳的宗教的な精神世界を作品に反映させているのが特徴である。

特にこの『英訳聖書』にその雰囲気がよく表れている。サンダーソンには、プレスを廃業する時、その活字が他人に使用されることを恐れ、テムズ川に沈めたというエピソードがある。

この異常なまでの行動は、サンダーソンが本作りに己の理想を捧げた、真の芸術者であったことの証^{あかし}といえよう。

Private Press (私家版印刷所)

19世紀後半から20世紀初頭のイギリス、衰退していた商業印刷に“美本印刷運動”が起こった。この運動に大きな影響を与えたのがPrivate Pressである。

Private Pressは多くの場合営利を目的とせず、印刷者自ら出版作品を選定し、発行部数を限定して世に作品を送り出した。一切を機械に頼らず、工房独自の活字を用い、装丁・製本・材料ともども入念に吟味し、美術的要素を兼ね備えた書物作りに徹していた。

こうした運動は、近代的コマースリズムと、大量生産による粗製乱造に対するアンチ・テーゼであった。このため商業出版社とは正反対の手作業を主とし、世間の需要とは全く無関係なところで不朽の精選作品を生み出したのであった。

三大PRESS について

Private Pressといえば、ウィリアム・モリスのケルムスコット・プレス、コブデン・サンダーソンのダブス・プレス、シンジャン・ホーンビイのアシェンデン・プレスが世界の三大Private Pressと賞される。

ダブス・プレスは、ケルムスコット・プレスの活字や装飾の頭文字を担当していた彫刻師エマリー・ウォーカーと不即不離の関係にある。その理由は、モリスの死後、ケルムスコット・プレスが閉鎖された際、当時、法廷弁護士として活躍していたサンダーソンが法曹会を捨てて、理想の書物制作に燃え、

ウォーカーの協力のもと設立したものであるからだ。

ダブス・プレスは、古典作品の持つ抑制の美学を書物に体現させることを目的に制作を重ねた。その傑作が、ダブス活字による『英訳聖書』である。

本学では、この『英訳聖書』を全て所蔵しています。興味を持たれた方は、是非一度手にとって「理想の書物」を体現したPrivate Pressの美しさをじっくりご鑑賞ください。

